

參考一四

司法保護委員會名稱位置保護區

名稱	位置	保護區
台北司法保護委員會	台北市	台北、基隆、宜蘭市、七星、淡水、基隆、宜蘭、羅東、蘇澳、文山、海山、新莊、新港、新東、關山、新港、花蓮港、花蓮、鳳林、玉里
新竹司法保護委員會	新竹市	新竹市、新竹、中壢、苗栗、大湖、竹南、桃園、大溪、竹東、那
台中司法保護委員會	台中市	台中、彰化市、大屯、豐原、東勢、大甲、彰化、員林、北斗、南投、新高、能高、竹山、那



台南司法保護委員會	高雄司法保護委員會
台南市	高雄市
台南州	澎湖 高雄州
台南 嘉義市 新營 新化 曾文 北門 新豐 嘉義 斗六 虎尾 北港 東石 郡	高雄 屏東市 岡山 旗山 屏東 潮州 東港 恒春 鳳山 郡 望安 馬公 支庁



參考一五

司法保護委員會及司法保護團體設置調

計	司法保護委員會		司法保護團體	
	委員會名	所屬區數	本部	支部
	台北司法保護委員會	一九	我國法人台灣三成協會	台北、花蓮、港
	新竹司法保護委員會	九	同	新竹
	台中司法保護委員會	一三	同	台中
	台南司法保護委員會	一二	同	台南、嘉義
	高雄司法保護委員會	一一	同	高雄
計		六四	我國法人宜蘭保護會	二
				七



備考

保護委員會所屬區ハ市郡ヨリ区域トシ  
設置ス



(参考)一六

司法保護事業法施行規則(府令案)



司法保護事業法施行規則目次

第一章 總則

第二章 司法保護團體及司法保護委員

第一節 司法保護團體

第二節 司法保護委員

第三章 保護手續

第一節 司法保護團體手續

第二節 司法保護委員手續

第四章 司法保護團體經營

第五章 雜則

附則



司法保護事業法施行規則  
第一章 總則

第一條 司法保護事業法第一條ノ事業

ノ施行ニ付テハ法令ニ別段ノ定マル

又ノヨ除クハ外本令ニ依ル

第二條 司法保護事業法ニ依ル保護ニ

於テハ本人ノ性格ノ陶冶及生活ノ安

定ヲ圖ルベシ

性格ノ陶冶ニ付テハ本人ノ心身ヲ鍛

練シテ其ノ性情ノ改善、徳性ノ涵養



第 三 條

ヲ為シ生活ノ安定ニ付テハ環境ノ調  
整及生活ノ扶助及生業ノ助成ヲ為ス

環境ノ調整ハ本人ヲ親族其ノ  
隣保及被害者ト融和セシ

地保護者、依リ之ヲ為スベシ  
ハルコトニ依リ之ヲ為スベシ

生活ノ扶助ハ金錢又ハ物品ノ給與ニ  
依リ之ヲ為シ必要ナル場合ニ於テハ

適當ナル醫療ヲ受ケシムベシ  
生業ノ助成ハ生業ニ必要ナル資金







第六條

ハ 第四條 保護ノ種類ヲ定ムルニ當リテ  
所 規定スル事項ノ外本人ノ  
持 金品及保護關係等ヲ參

第七條

酌 スベシ 收容保護ハ本人歸住地ヲ有セ  
ガ ル 場 合 其 他 保 護 上 特 別 必 要 ナル  
場 合 於 テ 一 定 ノ 施 設 收 容 シ 繼 續  
シ テ 輔 導 スル コトニ依リ之ヲ行フ  
前 項 ノ 輔 導 當 リテハ 教 育 授 産 其  
他 社 會 生 活 上 必 要 ナル 訓 練 等 施 入



第

コトニカラムベシ  
ハ條 觀察保護ハ本人一定ノ住居ニ

有スル場合ニ於テ其ノ住居ニ就キ繼

續シテ輔導スルコトニ依リ之ヲ行フ

前項ノ輔導ニ當リテハ面接 通信其

ノ他ノ方法ニ依リ鼓舞激励シ正常ナ

ル生活ニ馴致セシムルコトニカラムベ

シ

第

九條 一時保護ハ危急ノ保護ヲ與フ

ル必要ナル場合ニ於テ一時ノ輔導ヲ



為スコトニ依リ之ヲ行フ

前項ノ輔導ニ當リテハ歸任ノ斡旋又

ハ金品ノ給與若ハ貸與等ノ方法ニ依

リ本人ノ實情ニ即シタル處置ヲ為ス

コトニ力ムベシ

第十條 收容保護及一時保護ハ司法保

護事業ヲ經營スル者(以下司法保護団体ト稱ス)之

ニ當リ觀察保護ハ特ニ規定アル場合

ヲ除クノ外司法保護委員之ニ當ル

第十一條 保護ニ當ル者ハ懇切丁寧ヲ



ト	救	第	コ	シ	第	ベ	者	旨
密	護	十	ト	相	十	シ	ノ	ト
接		三	=	扶	二		名	シ
ナ	扶	條	カ	ケ	條		譽	固
ル	助		ム	テ	保	ヲ	毀	ク
聯	及	保	ベ	互	護	損	セ	秘
絡	醫	護	シ	=	=	ガ	ル	密
ヲ	療	=		其	當	コ	ト	ヲ
保	=	當		ノ	ル	=	留	守
ツ	関	ル		機	者	意	ス	リ
ベ	ス	者		能	ハ			本
シ	ル	ハ		ヲ	聯			人
	社	職		發	絡			其
	會	業		揚	ヲ			ノ
	施	紹		ス	恐			他
	設	介		ル	=			ノ



第二章 司法保護團體及司法保護委員

第一節 司法保護團體

第十四條 司法保護團體ハ左ノ二種ト

ス

一、司法保護事業法第一條ノ保護ヲ為

ス事業ヲ經營スルモノ（以下直接保護團體ト

稱ス）

二、前號ニ掲グル事業ニ関シ指導、連

絡又ハ助成ヲ為ス事業ヲ經營スル

モノ（以下指導助成團體ト稱ス）



第十五條 直接保護團體ニ在リテハ成

ルベク收容保護ノ施設ヲ設クベシ

第十六條 收容保護施設ニアリテハ保

健衛生及災害豫防ノ為ニ必要ナル設備

ヲ為スベシ

第十七條 指導助成団体ノ設立ハ左ノ

種別ニ從ヒ之ヲ為スベシ

一、司法保護団体ノ指導及聯絡ヲ為ス

コトヲ目的トスルモノ（以下司法保護聯合會

ト稱ス）



二 司法保護團體ノ助成ヲ為スコトヲ

目的トスルモノ（以下特殊助成團體ト稱ス）

第十八條 司法保護聯合會ハ左ノ二種

トス

一 地方法院管内司法保護聯合會（聯合保

護會ト稱ス）

二 全島司法保護聯合會（臺灣司法保護事業聯盟ト

稱ス）

第十九條 聯合保護會ハ其ノ地區内、

直接保護團體又ハ特殊助成團體ヲ以



テ、臺灣司法保護專業聯盟ハ聯合保護  
會ヲ以テ其ノ會員トス

司法保護團體ノ支部ハ前項ノ規定ノ  
適用ニ付テハ之ヲ司法保護團體ト見  
做ス

第二十條 直接保護團體又ハ特殊助成

團體ニシテ其ノ事業經營ニ以上ノ地  
方法院ノ管轄區域ニ亘ルモノハ臺灣  
司法保護專業聯盟ノ會員トス

第二十一條 司法保護聯合會ニ左ノ役



39,

第

二十  
二條

司法保護團體ヲ  
設立セシム

充ツ

ハ總務長官ノ職ニ在ル者ヲ以テ之ニ

者、臺灣司法保護事業聯盟ニ在リテ

リテハ地方法院檢察官長ノ職ニ在ル

前項ノ役員中會長ハ聯合保護會ニ在

三、理事 若干人

六、副會長 若干人

一、會長 一人

員ヲ置ク



ト ス ル ト キ ハ 左 ニ 掲 グ ル 事 項 ヲ 具 シ  
臺 湾 總 督 ノ 認 可 ヲ 受 ク ベ シ  
司 法 保 護 團 体 支 部 ヲ 設 置 セ ン ト ス ル  
ト \* 亦 同 ジ  
一 名 稱  
二 事 務 所  
三 事 業 ノ 種 類  
四 設 立 者 ノ 氏 名 及 住 所  
五 經 營 ノ 方 法  
六 保 護 ノ 種 類 及 方 法



40,

第 二 十 四 條	督 ノ 認 可 ヲ 受 ク ベ シ	ト ス ル ト キ ハ 其 ノ 理 由 ヲ 具 シ 臺 灣 總	乃 至 第 八 號 ニ 掲 ケ ル 事 項 ヲ 變 更 セ シ	第 二 十 三 條	十 寄 附 行 為	九、 設 立 者 ノ 履 歷 及 資 產 狀 況	名、 住 所 及 經 歷	八、 主 ト シ テ 經 營 ノ 實 務 ニ 當 ル 者 ノ 氏	七、 建 物 其 ノ 他 設 備 ノ 規 模 及 構 造
-----------------------	---	--	--	-----------------------	-----------------------	---	-----------------------------	---	---

第  
二  
十  
三  
條  
司  
法  
保  
護  
團  
體  
前  
條  
第  
一  
號

十  
寄  
附  
行  
為  
定  
款  
其  
ノ  
他  
ノ  
基  
本  
約  
款

九、  
設  
立  
者  
ノ  
履  
歷  
及  
資  
產  
狀  
況

名、  
住  
所  
及  
經  
歷

八、  
主  
ト  
シ  
テ  
經  
營  
ノ  
實  
務  
ニ  
當  
ル  
者  
ノ  
氏

七、  
建  
物  
其  
ノ  
他  
設  
備  
ノ  
規  
模  
及  
構  
造



トスルトキハ其ノ事由及現ニ保護中  
ノ者ニ関スル處置竝ニ財産ノ處分方  
法ヲ具シ臺灣總督ノ認可ヲ受クベシ

第二節

司法保護委員

第二十五條 司法保護委員ハ保護區毎

ニ之ヲ置ク

保護區及各保護區ニ配置スベキ司法

保護委員ノ定數ハ臺灣總督之ヲ定ム

第二十六條 司法保護委員ハ保護區毎



第二十七條 區司法保護委員會ヲ組織スベシ  
區司法保護委員會ニ常務

委員ヲ置ク

常務委員ハ司法保護委員ノ中ヨリ臺

灣總督之ヲ命ス

第二十八條 區司法保護委員會ニ幹事

ヲ置クコトヲ得

幹事ハ司法保護委員ノ中ヨリ司法保

護委員會長之ヲ命ズ

第二十九條 區司法保護委員會ノ重要



第三十條

之ヲ委囑ス  
友學識經驗アル者  
事務ハ司法保護事業ニ關係アル官吏  
護委員會ニ參事ヲ置クコトヲ碍  
十ル事務ニ參劃セシムル為區司法保  
事ハ司法保護事業ニ關係アル官吏

如シ  
司法保護委員會ノ担任區域ノ決定及

一、司法保護委員會ノ担任區域ノ決定及

其ノ變更  
司法保護委員會ノ担任區域ノ決定及

保護ヲ担当スベキ司法保護委員會ノ



42.

第				第						
三	ト	ヲ	ハ	三		五	四	三		
十	認	決	區	十	必	其	司	保	決	
二	ム	ス	司	一	要	ノ	法	護	定	
條	ル	常	法	條	ノ	他	保	ノ	及	
	事	務	保		ル	觀	護	解	其	
區	項	委	護	前	事	察	委	除	ノ	
司	ニ	員	委	條	項	保	員		變	
法	付	ニ	員	第		護	相		更	
保	亦	於	會	一		ノ	互			
護	同	テ	ノ	號		目	ノ			
委	シ	特	會	ニ		的	聯			
員		ニ	議	掲		ヲ	絡			
會		必	ニ	カ		達				
ノ		要	於	ル		ス				
會		アリ	テ	事		ル				
議			之	項		為				



ハ常務委員之ヲ招集ス

第三十三條 區司法保護委員會ハ會議

ニ於テ決定シタル事項ヲ司法保護委

員會ニ報告スベシ

第三十四條 區司法保護委員會ハ其ノ

事業ノ成績及會計ノ狀況ヲ毎年司法

保護委員會ニ報告スベシ

第三十五條 司法保護委員會ノ會長ハ

會務ヲ總理ス

會長事故アルトキハ會長ノ指名スル



委員其ノ職務ヲ代理ス

第

三十六條

司法保護委員會ノ重要ナ

ル事務ニ参劃セシムル為司法保護委

員會ニ参與ヲ置クコトヲ得

參與ハ司法保護事業ニ關係アル官吏

及學識經驗アル者ノ中ヨリ臺灣總督

之ヲ委囑ス

第

三十七條

司法保護委員會ニ主事及

書記ヲ置クコトヲ得主事及書記ハ

司法保護委員會長之ヲ命ス



主事ハ會長ノ命ヲ承ケ庶務ヲ處理シ  
書記ハ會長及主事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ  
ニ從事ス

第三十八條

司法保護委員會ノ任務左

一、如之

一、保護通知ニ関スル處理

二、司法保護委員ノ指導及訓練

三、區司法保護委員會ノ聯絡

四、司法保護思想ノ普及及宣傳

五、其ノ他司法保護事業運営ノ為ニ必



要ナル事項

第三十九條 前條第一號及第三號ニ掲

ガル事項ハ司法保護委員會ノ會議ニ

於テ之ヲ決ス會長ニ於テ<sup>特に</sup>必要アリト

認ムル事項ニ付亦同ジ

第四十條 司法保護委員會ノ會議ハ會

長之ヲ招集ス

第四十一條 司法保護委員會ハ會議ニ

於テ決定シタル事項ヲ臺灣總督ニ報

告スベシ



第四十二條 司法保護委員會、其ノ事業ノ成績及會計ノ狀況ヲ毎年臺灣總督ニ報告スベシ

### 第三章 保護ノ手續

第一節 司法保護團體ノ手續

第四十三條 檢察官司法保護事業法第一條第一號及第二號ニ掲ケル者ニ對シ一時保護又ハ收容保護ノ必要アリト認ムルトキハ本人ノ現在地又ハ歸



第 八 收 容 保 護 ヲ 為 シ タ ル ト キ ハ 臺 灣 總	第 四 十 五 條 司 法 保 護 團 體 一 時 保 護 又	第 四 十 四 條 票 ニ 依 リ 之 ヲ 為 ス ベ シ	第 四 十 四 條 前 條 ノ 規 定 ニ 依 ル 通 知 ハ	亦 同 ジ	第 八 收 容 保 護 ノ 必 要 ヲ リ ト 認 ム ル ト キ	第 六 號 ニ 掲 ケ ル 者 ニ 對 シ 一 時 保 護 又	シ 刑 務 所 ノ 長 同 法 第 一 條 第 三 號 乃 至	任 地 ノ 司 法 保 護 團 體 ニ 之 ヲ 通 知 ス ベ
---	--	---	--	-------------	---	--	--	--



		第		第		第		督
ヲ	ト	四	ハ	四	テ	ア	四	二
報	キ	十	シ	十	其	リ	十	之
告	ハ	八	シ	七	ノ	ト	六	ヲ
ス	司	條		保	條	携	認	條
ベ	法			護		有	ム	報
シ	保	左		團	本	ス	ル	司
	護	=		体	人	ル	ト	法
	團	掲		ハ	疾	金	キ	保
	体	ケ		速	病	品	ハ	護
	ハ	ル		=	=	ヲ	本	團
	臺	事		醫	罹	保	人	体
	湾	由		療	リ	管	ノ	保
	總	生		ヲ	タ	ス	承	護
	督	ジ		受	ル	ベ	諾	上
	=	タ		ケ	ト	シ	ヲ	必
	之	ル		シ	*		得	要



第

四十九條 本人ニ對シ觀察保護ヲ為

スヲ相當ナリト認ムルトキハ司法保

護團体ハ本人ノ現在地又ハ歸在地ノ

司法保護委員會ト聯絡ノ上保護上適

\*

五、其ノ他重要ナル事由ヲ生ジタルト

四、本人死亡シタルトキ

ルトキ

三、本人傳染病又ハ重キ疾病ニ罹リ又

ニ、本人更ニ罪ヲ犯シタルトキ

一、本人所在不明トナリタルトキ



當ナル處置ヲ執ルベシ

第五十條 司法保護團體前條ノ規定ニ

依ル處置ヲ為シタルトキ又ハ收容保

護ノ解除ヲ為シタルトキ又ハ臺灣總督

ニ之ヲ報告スベシ

第五十一條 司法保護團體必要アリト

認ムルトキハ本人ニ對シ學科若ハ技

術ノ成績又ハ性行ニ關スル證明書ヲ

交付スルコトヲ得



第二節

司法保護委員ノ手續

第五十二條 檢察官司法保護事業法第

一條第一號及第二號ニ掲ガル者ニ對

シ觀察保護ノ必要アリト認ムルトキ

ハ本人ノ現在地又ハ歸任地ノ司法保

護委員會ニ之ヲ通知スベシ刑務所ハ

長同法第一條第三號乃至第六號ニ掲

ガル者ニ對シ觀察保護ノ必要アリ

トキ亦同ジ

第五十三條 第五十條ノ規定ハ前條ノ



規定ニ依ル通知ニ  
第五十四條 司法保護委員其ノ担任區  
域内ニ司法保護事業法第一條ノ各號  
ノ一ニ該當スル者ニシテ之ニ觀察保  
護ヲ相當トスルモノアルコトヲ認メ  
タルトキハ直ニ司法保護委員會ニ之  
ヲ通知スベシ  
司法保護委員前項ノ場合ニ於テ必要  
アリト認ムルトキハ本人ノ保護ニ付  
應急ノ處置ヲ為スベシ



第五十

條ノ規定ニ依ル通知ヲ受ケタルトキハ

八木人ノ現在地又ハ歸任地ノ區司法

保護委員會ニ通知スベシ前條第一項

ノ規定ニ依ル通知ヲ受ケタル場合ニ

於テ本人ニ對シ觀察保護ノ必要アリ

ト認ムルトキ亦同ジ

第五十六條 區司法保護委員會前條ノ

規定ニ依ル通知ヲ受ケタルトキハ木

人ノ保護ヲ担当スベキ司法保護委員



ヲ定メ其ノ司法保護委員ニ之ヲ通知スベシ

第五十七條 司法保護委員ハ担当シタ

ル本人ニ付速ニ生活状態、職業關係

共ノ他本人ノ輔導上必要ナル事項ヲ

第五十八條 保護ヲ開始スベシル事項ヲ

シタルトキハ司法保護委員保護ヲ開始

報告スバシキハ司法保護委員會ニ之ヲ

第五十九條 本人他ノ保護區ニ轉住シ

本人他ノ保護區ニ轉住シ



第

置 護 知 司 護 護 委 六 司 夕  
 ヲ 團 ヲ 法 委 ノ 員 十 法 ル  
 執 休 受 保 員 必 ノ 條 保 ト  
 ル ト ケ 護 會 要 通 護 キ  
 ベ 聯 夕 委 = ア 知 區 委 ハ  
 シ 絡 ル 員 之 リ = 司 員 司  
 ノ ト 會 ヲ ト 依 法 會 法  
 上 々 前 通 認 リ 保 = 保  
 保 ハ 項 知 ハ 本 護 之 護  
 護 選 ノ ス ル 人 委 ヲ 委  
 上 滯 規 ベ ト = 員 通 員  
 適 ナ 定 シ キ ハ 對 會 知 ハ  
 當 ク = 依 司 法 司 法 轉  
 ナ 司 依 司 救 法 法 在  
 ル 法 ル 司 容 保 保 先  
 處 保 通 保 保 護



第六十一條 前條第二項ノ規定ハ司法

保護委員會司法保護團體ヲシテ觀察

保護ヲ為サシムルヲ適當ト認ムル場

合ニ之ヲ準用ス

第六十二條 本人ニ付保護ノ目的ヲ達

シタル之ノト認ムルトキハ司法保護

委員會ハ區司法保護委員會ニ其ノ旨ヲ

通知スベシ

區司法保護委員會前項ノ規定ニ依ル

通知ヲ度ケタルトキハ遲滯ナク保護



第六十三條  
ノ解除ヲ為スベキカ否ヲ決定スベシ  
左ニ掲クル事由生ジタル

トキハ司法保護委員ハ司法保護委員  
會ニ之ヲ報告スベシ

一 本人所在不明ト為リタルトキ

二 本人更ニ罪ヲ犯シタルトキ

三 本人死シタルトキ

四 其ノ他重要ナル事由ヲ生ジタルト

第六十四條  
第五十條ノ規定ハ第六十



第一條、第六十二條、第六十五條、第  
 六十六條及第六十八條第一項ノ規定  
 依ル通知ニ之ヲ準用ス  
 第六十五條 司法保護委員會ハ觀衆保  
 護ノ成績ヲ臺灣總督ニ報告スベシ第  
 六十六條第二項及第六十七條ノ規定  
 依リ為シタル處置ニ付亦同シ



第四章司法保護團體ノ經營

第六十六條 臺灣總督ハ司法保護團體ノ事業ニ関シ施設ノ改良其ノ他必要ナル命令ヲ為スコトヲ得

第六十七條 臺灣總督ハ司法保護團體ノ事業經營ノ方法及施設ノ狀況ヲ調査セシムルコトヲ得

第六十八條 臺灣總督ハ司法保護團體ノ財產ノ管理其他會計ニ関スル事



項ニ付必要ナル命令ヲ為スコトヲ得  
 臺灣總督ハ部下官吏ヲシテ司法保護  
 團體ノ財産ノ管理其ノ他會計ノ狀  
 況ヲ調査セシムルコトヲ得  
 第六十八條 臺灣總督ニ必要ナル  
 命令ヲ得ルコト  
 第六十九條 司法保護團體ノ幕  
 集セシトスルコトハ左ニ掲グル事項  
 ヲ具シ事業經營地ノ地方長官ノ許可



- 一 募集者ノ氏名及住所
  - 二 募集ヲ必要トスル事由
  - 三 募集スベキ金額
  - 四 募集ノ方法
  - 五 募集ノ区域及期間
  - 六 事業成績ノ概要  
 茲ニ其ノ年度及前  
 年度ノ收支狀況
- 可ヲ受クベシ  
 上ノ州廳ニ直ルトキハ臺灣總督ノ許  
 ヲ受クベシ但シ其ノ事業經營地ニ以



第

七 事業計畫及之ニ関スル收支豫算  
七 十 條 司法保護團體寄附金ノ募集  
ヲ 完 了 シ 若ハ之ヲ中止シ又ハ募集期

間 満 了 シ タル ト キ ハ 募集許可官廳ニ  
對 シ 遅 滞 ナク 其ノ旨ノ報告ヲ為スベ

第

七 十 一 條 司法保護團體寄附金又ハ  
寄 附 金ニ依リテ得タル財産ノ処分ヲ

第

七 十 二 條 司法保護團體寄附金又ハ  
為 ン ト スル ト キ ハ 在ニ掲ガル事項

ヲ 具 シ 募集許可官廳ノ許可ヲ受クベ

シ



一處分スベキ金額又ハ財産及其ノ見  
積價格

ニ處分ヲ必要トスル事由

三處分ノ方法

第七十二條 司法保護團體ハ其ノ事業

ノ成績及會計ノ狀況ヲ毎年臺灣總督

ニ報告スベシ

第七十三條 司法保護團體ハ左ノ簿冊

ヲ備附クベシ

一日誌



二 保護原簿

三 會計簿

四 收容者名簿

五 保管金品臺帳

第

七 十四條 獎勵金 八 事業開始後三年

以上 司法保護團體 中

從前 成績良好 十 此 之 交付

計畫 適切 十 此 之 交付

司法保護團體 基礎 確實 之 其

司法保護團體 基礎 確實 之 其



第七十五條

事業ノ種類ニ依リ獎勵金ヲ交付スベ  
クモト認ムルトキハ前項ノ規定ニ  
拘ラカズ之ヲ交付ス

司法保護團體獎勵金ノ交

付ヲ受ケントスルトキハ左ニ掲グル  
事項ヲ具シ臺灣總督ニ申請スベシ

一 申請ノ事由

二 獎勵金ノ交付ヲ受ケントスル年度

算

ノ事業計畫並ニ之ニ関スル收支豫



三 事業成績ノ概要並ニ其ノ前年度ノ

收支狀況

第七十六條 獎勵金ハ所轄ノ地方法院

檢察官長ヲ經由シテ之ヲ交付ス

### 第五章 雜則

第七十七條 本令ニ於テ臺灣總督ニ為

スベキ報告又ハ認可若ハ獎勵金

交付ノ申請ハ特ニ定ムル場合ヲ除ク

外所轄地方法院檢察官長ヲ經由シテ

之ヲ為スベシ



附 則

第七十八條

本令ハ司法保護事業法施行ス

行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第七十九條

本令施行ノ際現ニ司法保

護事業ヲ經營スル者ハ本令施行ノ日

ヨリ二月以内ニ其ノ届出ヲ為シタル

場合ニ限り司法保護事業法第三條ノ

規定ニ依ル認可ヲ受ケタルモノト看

做ス

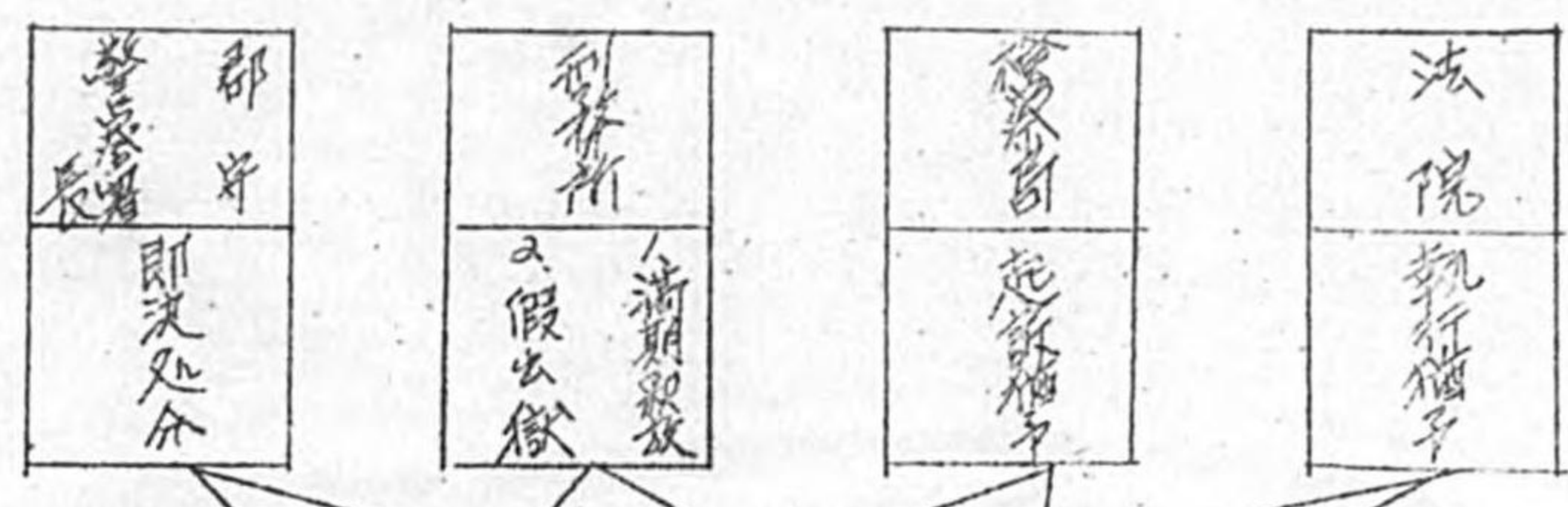
第八十條

本令施行ノ際現ニ地方法院



管内ノ司法保護団体ノ指導、連絡又  
 ハ助成ヲ為ス司法保護団体ハ本令ノ  
 規定ニ準據シテ其ノ組織ヲ改メ本令  
 施行ノ日ヨリ三月以内ニ届出ヲ為シ  
 夕ル場合ニ限リ第二十三條ノ規定ニ  
 依ル聯合保護會トシテ認可ヲ受ケテ  
 ルモノト看做ス  
 第八十一條 第二十八條及第八十三條  
 規定ハ前二條ノ届出ニ之ヲ準用ス





參考一  
司法保護事業一覽圖



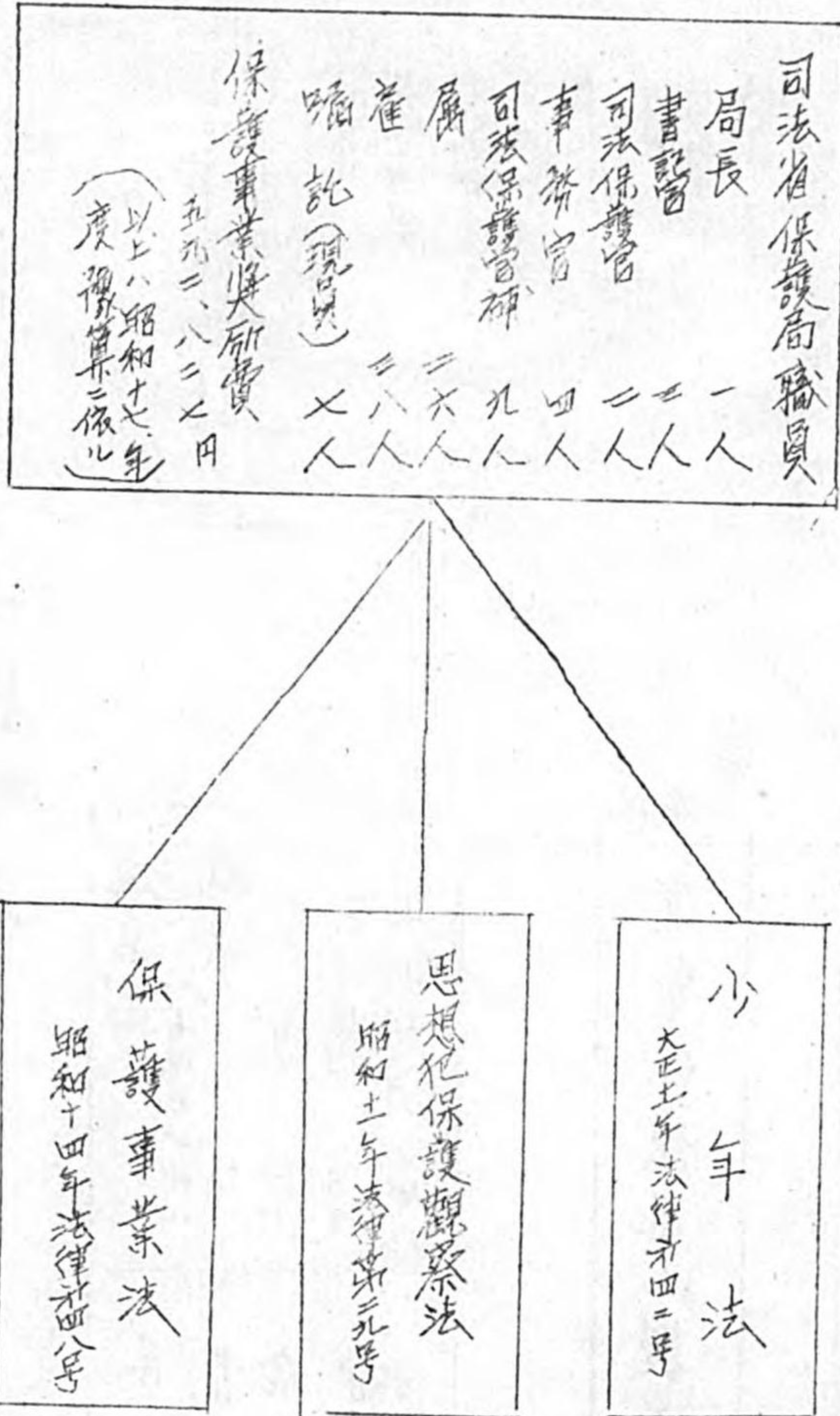
- 司法保護團體之機能
- (一) 收容保護
    - 1. 精神の指導
    - 2. 授産の指導 (場外場中)
    - 3. 疾病療養
    - 4. 生計補助
    - 5. 一時保護
    - 6. 職業紹介
    - 7. 放時旅費衣服給貸與
    - 8. 居住見送 (進行保護)
    - 9. 其他一時の保護

- 司法保護委員會機能
- 1. 解放時之保護
  - 2. 融和調停
  - 3. 生活指導及扶助
  - 4. 生業指導及援護
  - 5. 戶籍整理指導
  - 6. 保健及救療指導及斡旋
  - 7. 家族保護
  - 8. 其他



參考一八

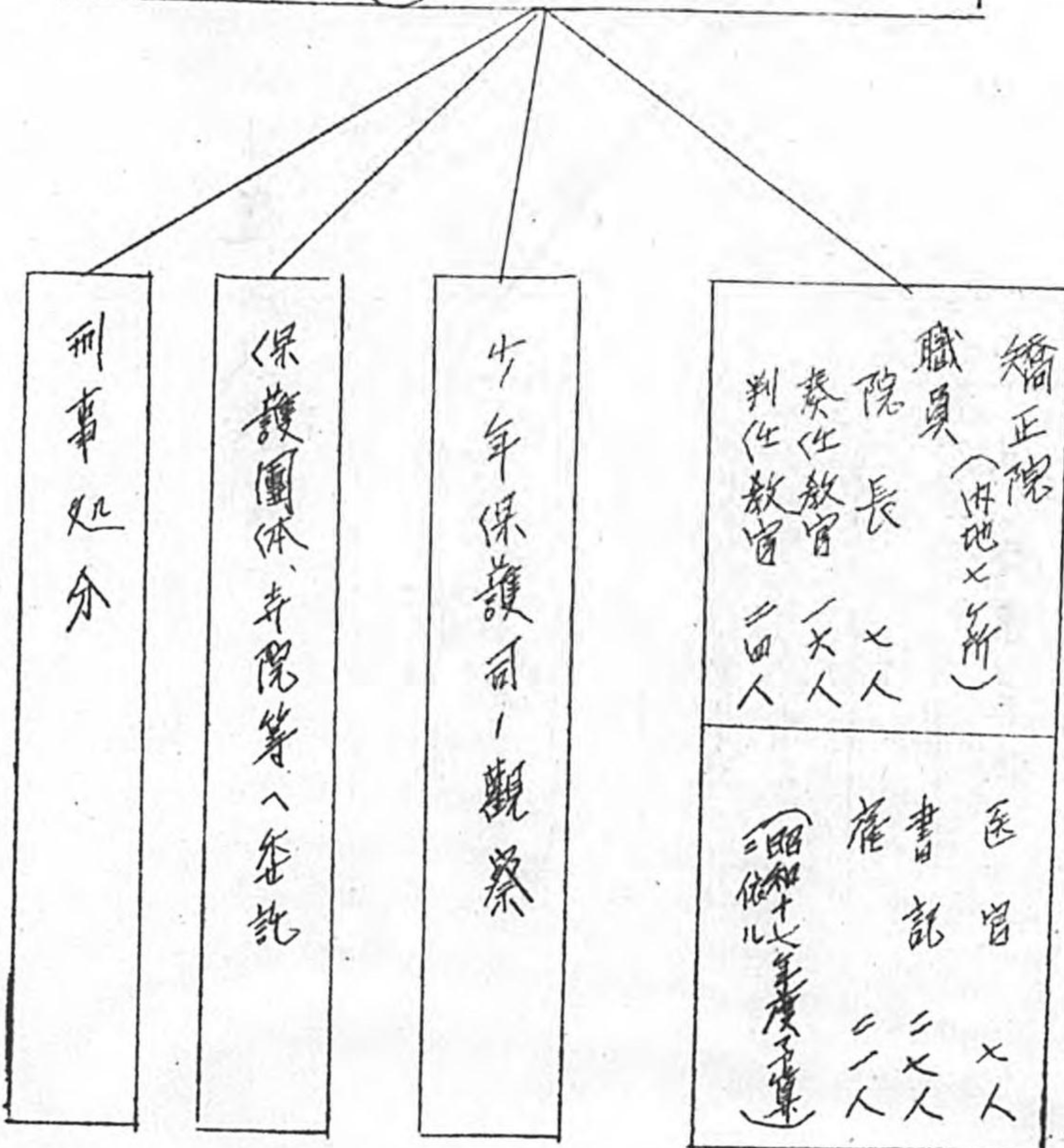
內地 = 於此司法保護施設機





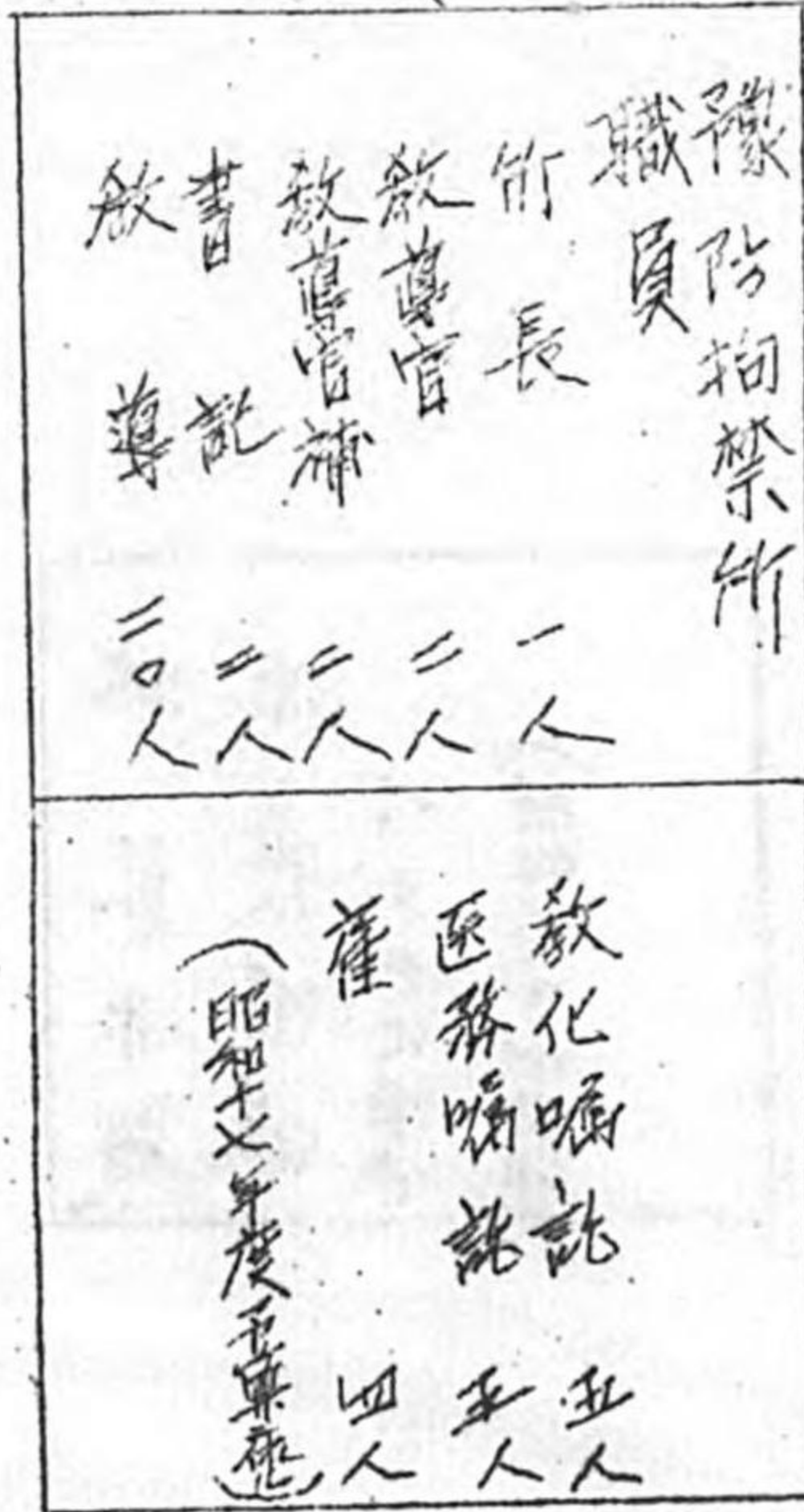
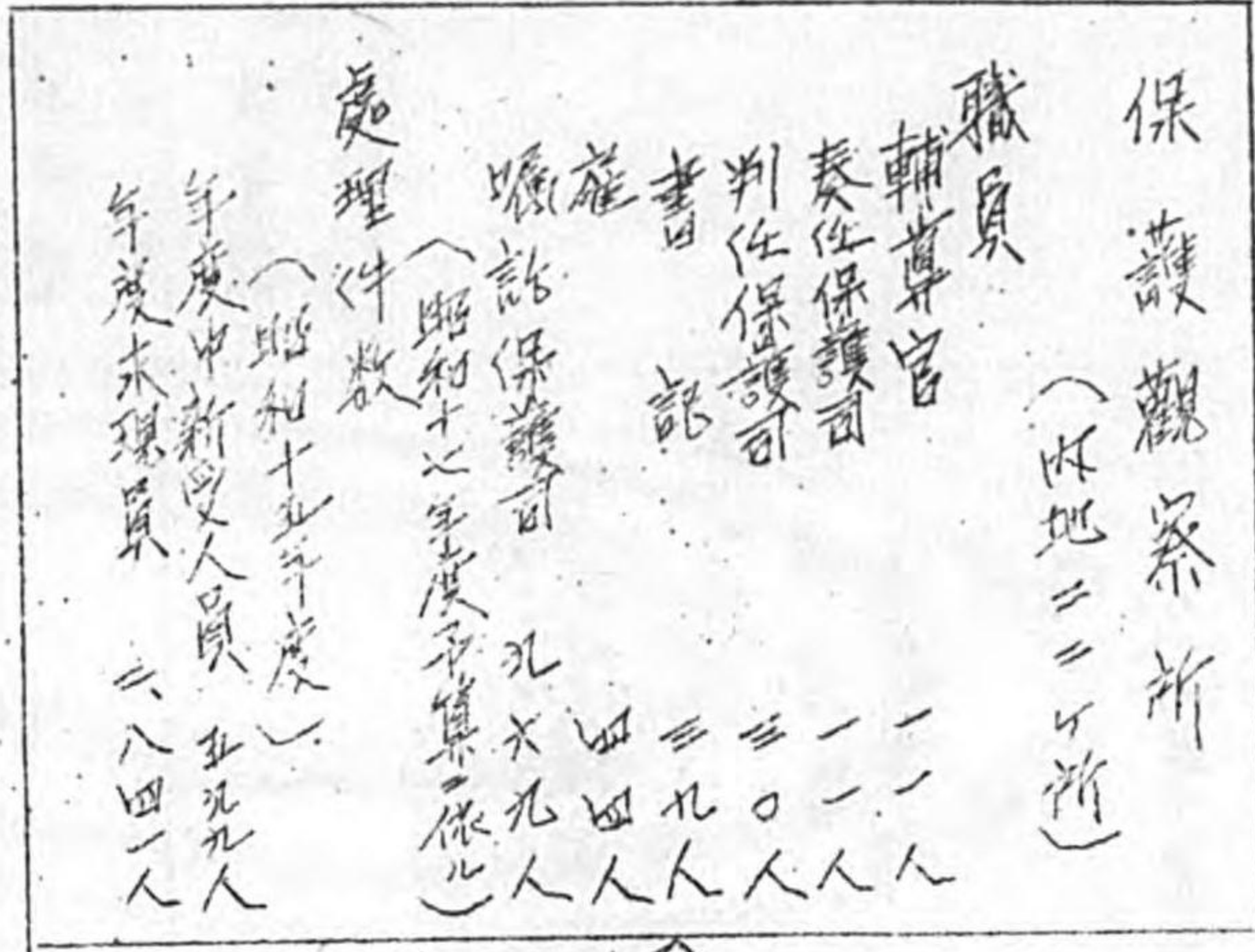
1. 少年法ニ基ク施設概要

職員	少年審判所 (内地7ヶ所)
審判官	27人
兼任保護司	25人
判任保護司	31人
書記	26人
産	7人
医務嘱託	13人
嘱託保護司	83人
(昭和十七年度予算案)	
處理件数	(昭和十五年)
受理	2,381人
保護処分 付シタル者	1,018人





思想性保護觀察法之基礎施設概要



保護司、觀察

保護團體へ委託



八 保護事業法ニ基テ施設概要

司法省  
保護  
委員会

司法保護委員事務局  
(内地七事務所)  
職員  
保護官 七人  
保護官補 七人  
書記 一人  
庶務 一人  
(昭和十七年度予算案ニ依ル)

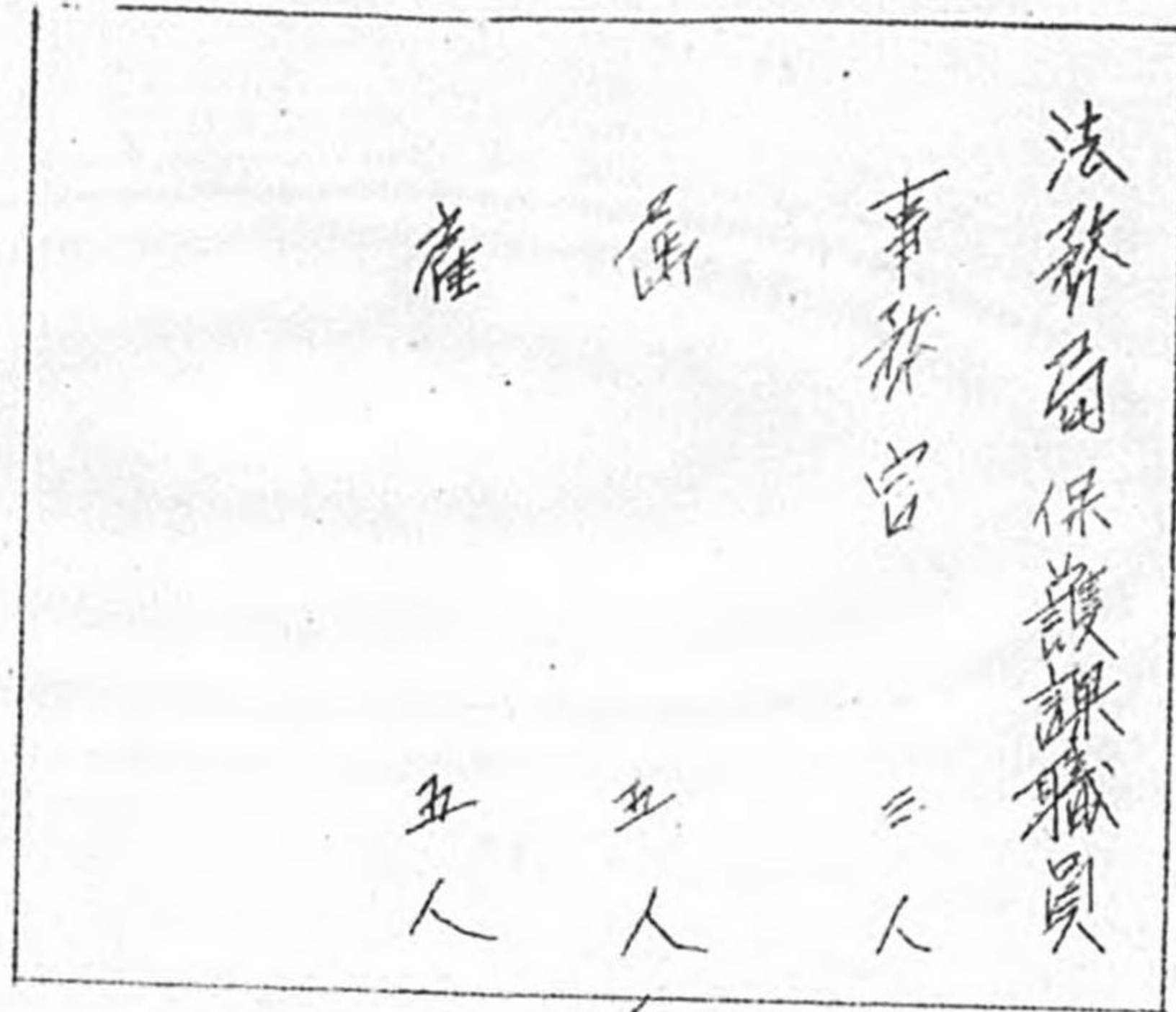
各地方裁判所  
所在地合議所  
保護委員分會

區保護  
委員會

觀察保護  
司法保護  
委員會  
(昭和十七年度預算案ニ依ル)

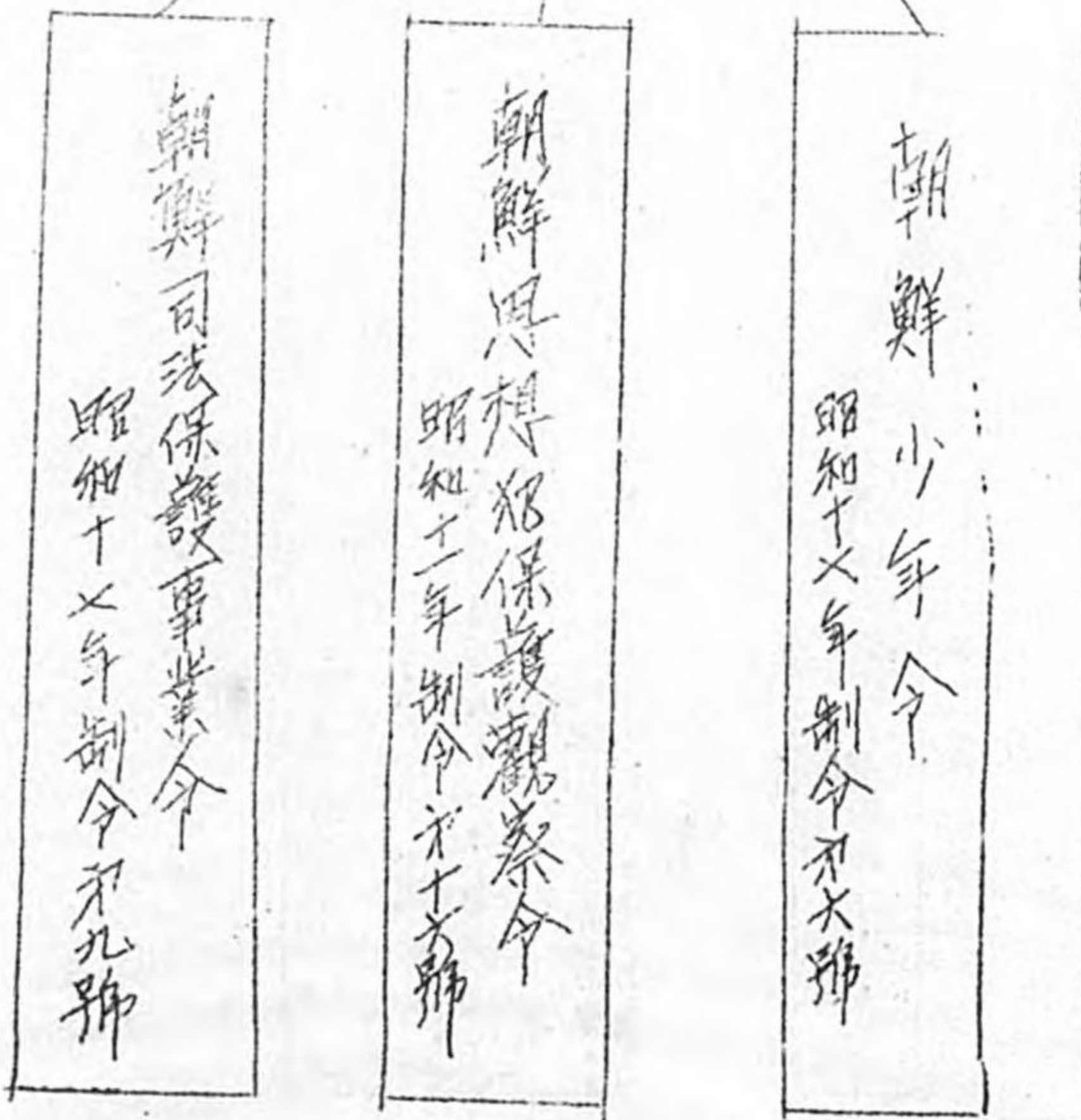
收容保護  
保護団体  
一〇二七団体  
(昭和十七年度預算案ニ依ル)





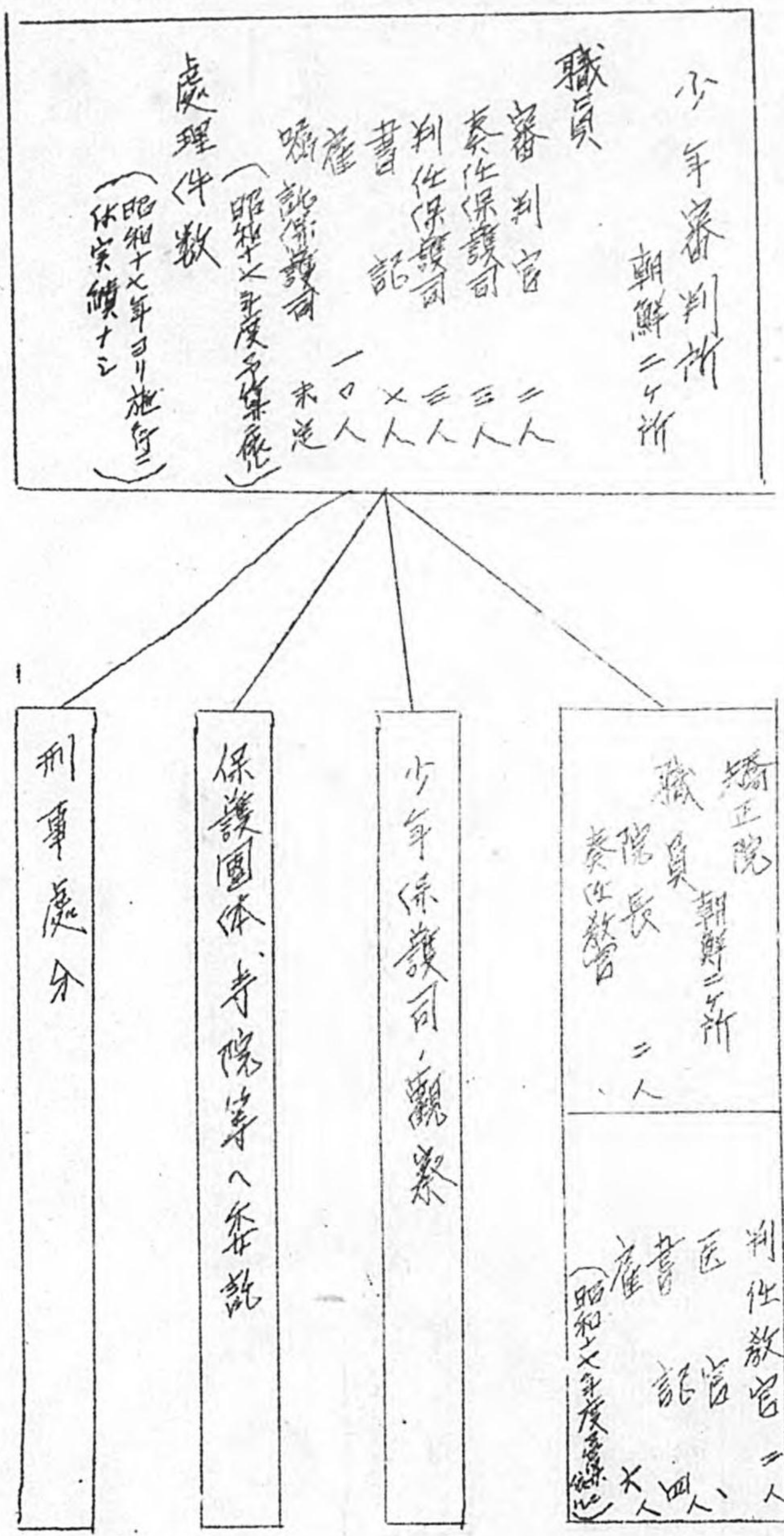
参考一丸

朝鮮ニ於テ司法保護施設概要





朝鮮少年令ニ基ク施設概略





口、朝鮮思想犯保護觀察所ニ基テ施設概要

保護觀察所		朝鮮7ヶ所	
職員			
輔導官	3人		
主任保護司	3人		
判任保護司	8人		
書記	8人		
通訳	7人		
産	2人		
施設保護司	7人		
(昭和十七年7月集産)			

豫防拘禁所		職員	
教導官	3人		
教導官補	8人		
書記	3人		
通訳		3人	
産		5人	
(昭和十七年7月集産)			

保護司ノ觀察

保護団体ハ委託



八、朝鮮司法保護事業令ニ基ク施設概要

各地方裁判所  
所在地(土佐所)  
司法保護委員會

區保護委員會

觀察保護  
司法保護委員  
五五三人  
(昭和十七年四月)

收容保護  
保護團體  
二大團體  
(昭和十七年四月)



參考  
二〇

地 內

司 法 保 護 事 業 法 關 係 法 規



# 一 司法保護事業法

(昭和十四年三月二十九日  
法律第四十二號)

第一條 本法ニ於テ司法保護事業トハ左ニ掲グル者ノ保護ヲ爲ス事業及右事業ニ關シ指導、聯絡又ハ助成ヲ爲ス事業ヲ謂フ

一 訴追ヲ必要トセザル爲公訴ヲ提起セズトセラレタル者

二 刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタル者

三 刑ノ執行停止中ノ者

四 刑ノ執行ノ免除ヲ得タル者

五 假出獄中ノ者

六 刑ノ執行ヲ終リタル者

七 少年法ニ依リ保護處分ヲ受ケタル者

第二條 前條ノ保護ニ於テハ本人ガ更ニ罪ヲ犯スノ危険ヲ防止シ之ヲシテ進ンデ臣民ノ本分ヲ恪守セシムル爲性格ノ陶冶、生業ノ助成其ノ他適當ノ處置ヲ以テ本人ヲ輔導スルモノトス  
保護ノ種類及方法ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム



第三條 司法保護事業ヲ經營セントスル者ハ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ之ヲ廢止セントスルトキ亦同ジ

第四條 主務大臣ハ司法保護事業ヲ經營スル者ニ對シ監督上必要アル場合ニ於テハ其ノ事業ニ關スル報告ヲ徵シ、實況ヲ調査シ又ハ事業ノ經營ニ關シ指示ヲ爲スコトヲ得

第五條 主務大臣ハ司法保護事業ヲ經營スル者ニ對シ司法保護事業ニ關スル事項ノ調査ヲ委囑スルコトヲ得

第六條 司法保護事業ヲ經營スル者其ノ事業ノ經營ニ必要ナル資金ヲ得ル爲寄附金ヲ募集セントスルトキハ主務大臣又ハ地方長官ノ許可ヲ受クベシ

前項ノ規定ニ依リ寄附金ヲ募集シタル者（其ノ承繼者ヲ含ム）ハ其ノ收支ヲ寄附金募集ノ許可ヲ受ケタル官廳ニ報告スベシ

前項ニ掲グル者其ノ寄附金又ハ之ニ依リテ得タル財産ヲ處分セントスルトキハ寄附金募集ノ許可ヲ受ケタル官廳ノ許可ヲ受クベシ

第七條 司法保護事業ヲ經營スル者本法ニ違反シ、公益ヲ害シ若ハ害スルノ虞アリ又ハ著シク不當ノ行爲アリタルトキハ主務大臣ハ司法保護事業委員會ノ意見ヲ聽キ其ノ者ニ對シ第三條ノ認可ヲ取消シ又ハ事業ノ經營ヲ制限スルコトヲ得司法保護事業ヲ經營スル者ガ法人ナル場合ニ



於テ理事其ノ他ノ業務ヲ執行スル役員ニ著シク不當ノ行爲アリタルトキ亦同ジ  
司法保護事業委員會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第八條 政府ハ司法保護事業ヲ經營スル者ニ對シ豫算ノ範圍内ニ於テ獎勵金ヲ交付スルコトヲ  
得

第九條 道府縣、市町村其ノ他ノ公共團體ハ司法保護事業ノ用ニ供スル土地建物ニ對シテ租稅  
其ノ他ノ公課ヲ課スルコトヲ得ズ但シ有料ニテ之ヲ使用セシムル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第十條 第一條ニ掲グル者ノ保護ヲ爲サシムル爲別ニ司法保護委員ヲ置ク  
司法保護委員ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十一條 司法保護事業ヲ經營スル者左ノ各號ソ一ニ該當スルトキハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第六條第一項ノ規定ニ依ル許可ヲ受ケズシテ寄附金ヲ募集シタルトキ

二 第六條第二項ノ規定ニ依ル報告ヲ爲サズ又ハ虛偽ノ報告ヲ爲シタルトキ

三 第六條第三項ノ規定ニ依ル許可ヲ受ケズ又ハ其ノ許可ニ反シテ寄附金又ハ之ニ依リ得タル  
財産ヲ處分シタルトキ

四 第七條ノ規定ニ依ル取消又ハ制限ニ違反シテ司法保護事業ヲ經營シタルトキ

第十二條 司法保護事業ヲ經營スル者ハ其ノ代理人、戶主、家族、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業



務ニ關シ本法ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得  
ズ

第十三條 司法保護事業ヲ經營スル者ニ適用スベキ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事其ノ他ノ  
法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行ノ際現ニ司法保護事業ヲ經營スル者ニシテ命令ノ定ムル所ニ依リ届出ヲ爲シタルモノハ  
第三條ノ規定ニ依ル認可ヲ受ケタル者ト看做ス

第六條第一項ノ規定ハ司法保護事業ヲ經營スル者ニシテ本法施行前寄附金ノ募集ニ付行政官廳ノ  
許可ヲ受ケタルモノニ對シテハ其ノ許可ニ基キ本法施行ノ際現ニ募集中ノ寄附金ニ付之ヲ適用セ  
ズ



## 二 司法保護事業委員會官制

(昭和十四年九月十二日  
勅令第六百四十三號)

第一條 司法保護事業委員會ハ司法大臣ノ監督ニ屬シ司法保護事業法第七條ノ規定ニ依リ其ノ  
權限ニ屬セシメタル事項ヲ調査審議ス

委員會ハ前項ノ外司法大臣ノ諮問ニ應ジ司法保護事業ニ關スル重要事項ヲ調査審議ス

第二條 委員會ハ會長一人及委員十五人以内ヲ以テ之ヲ組織ス

特別ノ事項ヲ調査審議スル爲必要アルトキハ臨時委員ヲ置クコトヲ得

第三條 會長ハ司法大臣ヲ以テ之ニ充ツ

委員及臨時委員ハ司法大臣ノ奏請ニ依リ關係各廳高等官及學識經驗アル者ノ中ヨリ内閣ニ於テ  
之ヲ命ズ

第四條 會長ハ會務ヲ總理ス

會長事故アルトキハ司法大臣ノ指名スル委員其ノ職務ヲ代理ス

第五條 委員會ニ幹事ヲ置ク司法大臣ノ奏請ニ依リ司法部内高等官ノ中ヨリ内閣ニ於テ之ヲ命  
ズ



幹事ハ會長ノ命ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

第六條 委員會ニ書記ヲ置ク司法省判任官ノ中ヨリ司法大臣之ヲ命ズ  
書記ハ會長及幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

附 則

本令ハ司法保護事業法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス



### 三 司法保護委員令

(昭和十四年九月十二日  
勅令第六百四十四號)

第一條 司法保護委員ハ司法大臣ノ監督ヲ承ケ司法保護事業法第一條ニ掲グル者ノ保護ヲ行フ  
第二條 司法保護委員前條ノ保護ヲ受クベキ者ノ性行及境遇ヲ調査シ其ノ性格ノ陶冶及生活ノ

安定ヲ圖ルベシ

第三條 司法保護委員ハ司法大臣之ヲ選任及解任ス

第四條 各司法保護委員ハ司法大臣ノ定ムル保護區ニ之ヲ配屬ス

第五條 各地方裁判所管轄區域毎ニ司法保護委員會ヲ置ク會長及委員ヲ以テ之ヲ組織ス

會長ハ當該地方裁判所檢察局ノ檢事正ノ職ニ在ル者ヲ以テ之ニ充テ委員ハ管轄區域内ノ保護區  
ニ屬スル司法保護委員ノ中ヨリ司法大臣ノ命ズル者ヲ以テ之ニ充ツ

第六條 司法保護委員ノ指導及訓練其ノ他司法保護委員ノ職務ノ遂行ニ關シ必要ナル事項ヲ處  
理ス

第七條 本令ニ規定スルモノヲ除クノ外司法保護委員及司法保護委員會ニ關シ必要ナル事項ハ  
司法大臣之ヲ定ム



附 則

本令ハ司法保護事業法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス



# 四 司法保護事業法施行規則

(昭和十四年九月十四日  
司法省令第四十八號)

## 司法保護事業法施行規則目次

第一章	總 則
第二章	司法保護團體及司法保護委員
第一節	司法保護團體
第二節	司法保護委員
第三章	保護ノ手續
第一節	司法保護團體ノ手續
第二節	司法保護委員ノ手續
第四章	司法保護團體ノ經營
第五章	雜 則
附 則	



司法保護事業法施行規則

第一章 總 則

第一條 司法保護事業法第一條ノ事業ノ施行ニ付テハ法令ニ別段ノ定アルモノヲ除クノ外本令ニ依ル

第二條 司法保護事業法ニ依ル保護ニ於テハ本人ノ性格ノ陶冶及生活ノ安定ヲ圖ルベシ  
性格ノ陶冶ニ付テハ本人ノ心身ヲ鍛鍊シテ其ノ性情ノ改善及徳性ノ涵養ヲ爲シ、生活ノ安定ニ付テハ環境ノ調整、生活ノ扶助及生業ノ助成ヲ爲スベシ

第三條 環境ノ調整ハ本人ヲ親族其ノ他保護者、隣保及被害者ト融和セシムルコトニ依リ之ヲ爲スベシ

生活ノ扶助ハ金錢又ハ物品ノ給與ニ依リ之ヲ爲シ、必要アル場合ニ於テハ適當ナル醫療ヲ受ケシムベシ

生業ノ助成ハ生業ニ必要ナル資金、器具及資料ノ給與若ハ貸與ヲ爲シ又ハ生業ニ必要ナル技能ヲ授クルコトニ依リ之ヲ爲スベシ

第四條 保護ノ要否ヲ定ムルニ當リテハ特ニ本人ノ改悛ノ程度、身心ノ狀況及生活能力ヲ參酌



スベシ

第五條 保護ノ種類左ノ如シ

一 收容保護

二 觀察保護

三 一時保護

第六條 保護ノ種類ヲ定ムルニ當リテハ第四條ニ規定スル事項ノ外本人ノ歸住地、所持金品及保護關係等ヲ參酌スベシ

第七條 收容保護ハ本人歸住地ヲ有セザル場合其ノ他保護上特ニ必要アル場合ニ於テ一定ノ施設ニ收容シ繼續シテ輔導スルコトニ依リ之ヲ行フ

前項ノ輔導ニ當リテハ教育、授産其ノ他社會生活ニ必要ナル訓練ヲ施スコトニカムベシ

第八條 觀察保護ハ本人一定ノ住居ヲ有スル場合ニ於テ其ノ住居ニ就キ繼續シテ輔導スルコトニ依リ之ヲ行フ

前項ノ輔導ニ當リテハ面接、通信其ノ他ノ方法ニ依リ鼓舞激勵シ正常ナル生活ニ馴致セシムルコトニカムベシ

第九條 一時保護ハ應急ノ保護ヲ與フル必要アル場合ニ於テ一時ノ輔導ヲ爲スコトニ依リ之ヲ



行フ

一一

前項ノ輔導ニ當リテハ歸住ノ斡旋又ハ金品ノ給與若ハ貸與等ノ方法ニ依リ本人ノ實情ニ即シタル處置ヲ爲スコトニカムベシ

第十條 收容保護及一時保護ハ司法保護事業ヲ經營スル者（以下司法保護團體ト稱ス）之ニ當リ觀察保護ハ特ニ規定アル場合ヲ除クノ外司法保護委員之ニ當ル

第十一條 保護ニ當ル者ハ懇切丁寧ヲ旨トシ固ク祕密ヲ守リ本人其ノ他ノ者ノ名譽ヲ毀損セザルコトニ留意スベシ

第十二條 保護ニ當ル者ハ聯絡ヲ密ニシ相扶ケテ互ニ其ノ機能ヲ發揚スルコトニカムベシ

第十三條 保護ニ當ル者ハ職業紹介、救護、扶助及醫療ニ關スル社會施設ト密接ナル聯絡ヲ保ツベシ

## 第二章 司法保護團體及司法保護委員

### 第一節 司法保護團體

第十四條 司法保護團體ハ左ノ二種トス

- 一 司法保護事業法第一條ノ保護ヲ爲ス事業ヲ經營スルモノ（以下直接保護團體ト稱ス）



二 前號ニ掲グル事業ニ關シ指導、聯絡又ハ助成ヲ爲ス事業ヲ經營スルモノ（以下指導助成團體ト稱ス）

第十五條 直接保護團體ノ設立ハ左ノ種別ニ從ヒ之ヲ爲スベシ

一 司法保護事業法第一條第一號及第二號ニ掲グル者ノ保護ヲ爲スコトヲ目的トスルモノ（以下猶豫者保護團體ト稱ス）

二 司法保護事業法第一條第三號乃至第六號ニ掲グル者ノ保護ヲ爲スコトヲ目的トスルモノ（以下釋放者保護團體ト稱ス）

三 司法保護事業法第一條第七號ニ掲グル者又ハ少年ニシテ同法第一條第一號乃至第六號ニ該當スル者ノ保護ヲ爲スコトヲ目的トスルモノ（以下少年保護團體ト稱ス）

四 思想犯保護觀察法第一條ニ掲グル者ノ保護ヲ爲スコトヲ目的トスルモノ（以下思想保護團體ト稱ス）

第十六條 直接保護團體ニ在リテハ成ルベク收容保護ノ施設ヲ設クベシ

第十七條 收容保護ノ施設ハ成ルベク收容スベキ者ノ男女ノ別ニ從ヒ之ヲ設クベシ

第十八條 初犯者ヲ收容スル施設ハ成ルベク再犯者ヲ收容スルモノト分離シテ之ヲ設クベシ

第十九條 收容保護ノ施設ニ在リテハ保健衛生及災害豫防ノ爲必要ナル設備ヲ爲スベシ



第二十條 少年保護團體ニ在リテハ教育及作業ニ關スル設備ヲ爲スベシ但シ特別ノ事情アルトキハ司法大臣ノ許可ヲ得テ作業ノ設備ハ之ヲ爲サザルコトヲ得

第二十一條 身體虛弱者、精神薄弱者其ノ他特殊ノ者ノ保護ヲ目的トスル司法保護團體ニ在リテハ醫療及監護ノ爲必要ナル設備ヲ爲スベシ

第二十二條 指導助成團體ノ設立ハ左ノ種別ニ從ヒ之ヲ爲スベシ

一 司法保護團體ノ指導及聯絡ヲ爲スコトヲ目的トスルモノ（以下司法保護聯合會ト稱ス）

二 司法保護團體ノ助成ヲ爲スコトヲ目的トスルモノ（以下特殊助成團體ト稱ス）

第二十三條 司法保護聯合會ハ左ノ三種トス

一 地方裁判所管内司法保護聯合會（聯合保護會ト稱ス）

二 控訴院管内司法保護聯合會（司法保護事業聯盟ト稱ス）

三 全國司法保護聯合會（全日本司法保護事業聯盟ト稱ス）

第二十四條 聯合保護會ハ其ノ地區内ノ直接保護團體又ハ特殊助成團體ヲ以テ、司法保護事業聯盟ハ其ノ地區内ノ聯合保護會ヲ以テ、全日本司法保護事業聯盟ハ司法保護事業聯盟ヲ以テ其ノ會員トス

司法保護團體ノ支部ハ前項ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ司法保護團體ト看做ス



第二十五條 直接保護團體又ハ特殊助成團體ニシテ其ノ事業經營ニ以上ノ控訴院ノ管轄區域ニ互ルモノハ全日本司法保護事業聯盟ノ會員トス

第二十六條 司法保護聯合會ニ左ノ役員ヲ置ク

- 一 會長 一人
- 二 副會長 若干人
- 三 理事 若干人

前項ノ役員中會長ハ聯合保護會ニ在リテハ地方裁判所檢事正ノ職ニ在ル者、司法保護事業聯盟ニ在リテハ控訴院檢事長ノ職ニ在ル者、全日本司法保護事業聯盟ニ在リテハ司法大臣ノ職ニ在ル者ヲ以テ之ニ充ツ但シ特別ノ事由アルトキハ聯合保護會及司法保護事業聯盟ノ會長ハ司法大臣ノ許可ヲ得テ他ノ者ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第二十七條 特殊助成團體ハ區域ヲ定メ又ハ事業ノ種類ヲ限リテ助成ヲ爲スコトヲ其ノ目的ト爲スコトヲ得

第二十八條 司法保護團體ヲ設立セントスルトキハ左ニ掲グル事項ヲ具シ司法大臣ノ認可ヲ受クベシ司法保護團體支部ヲ設置セントスルトキ亦同ジ

一名 稱



二 事務所

三 事業ノ種類

四 設立者ノ氏名及住所

五 經營ノ方法

六 保護ノ種類及方法

七 建物其ノ他設備ノ規模及構造

八 主トシテ經營ノ實務ニ當ル者ノ氏名、住所及經歷

九 設立者ノ履歷及資産狀況

十 寄附行爲、定款其ノ他ノ基本約款

第二十九條 司法保護團體前條第一號乃至第八號ニ掲グル事項ヲ變更セントスルトキハ其ノ理由ヲ具シ司法大臣ノ認可ヲ受クベシ

第三十條 司法保護團體ヲ廢止セントスルトキハ其ノ事由及現ニ保護中ノ者ニ關スル處置竝ニ財産ノ處分方法ヲ具シ司法大臣ノ認可ヲ受クベシ

### 第二節 司法保護委員

第三十一條 司法保護委員ハ保護區毎ニ之ヲ置ク



保護區及各保護區ニ配置スベキ司法保護委員ノ定數ハ司法大臣之ヲ定ム

第三十二條 司法保護委員ハ保護區毎ニ區司法保護委員會ヲ組織スベシ

第三十三條 區司法保護委員會ニ常務委員ヲ置ク

常務委員ハ司法保護委員ノ中ヨリ司法大臣之ヲ命ズ

第三十四條 區司法保護委員會ニ幹事ヲ置クコトヲ得

幹事ハ司法保護委員ノ中ヨリ司法保護委員會長之ヲ命ズ

第三十五條 區司法保護委員會ノ重要ナル事務ニ參畫セシムル爲區司法保護委員會ニ參事ヲ置ク

コトヲ得

參事ハ司法保護事業ニ關係アル官吏及學識經驗アル者ノ中ヨリ司法大臣之ヲ委囑ス

第三十六條 區司法保護委員會ノ任務左ノ如シ

一 司法保護委員ノ擔任區域ノ決定及其ノ變更

二 保護ヲ擔當スベキ司法保護委員ノ決定及其ノ變更

三 保護ノ解除

四 司法保護委員相互ノ聯絡

五 其ノ他觀察保護ノ目的ヲ達スル爲必要ナル事項



第三十七條 前條第一號ニ掲グル事項ハ區司法保護委員會ノ會議ニ於テ之ヲ決ス常務委員ニ於テ  
特ニ必要アリト認ムル事項ニ付亦同ジ

第三十八條 區司法保護委員會ノ會議ハ常務委員之ヲ招集ス

第三十九條 區司法保護委員會ハ會議ニ於テ決定シタル事項ヲ司法保護委員會ニ報告スベシ

第四十條 區司法保護委員會ハ其ノ事業ノ成績及會計ノ狀況ヲ毎年司法保護委員會ニ報告スベシ

第四十一條 司法保護委員會ノ會長ハ會務ヲ總理ス

會長事故アルトキハ會長ノ指名スル委員其ノ職務ヲ代理ス

第四十二條 司法保護委員會ノ重要ナル事務ニ參畫セシムル爲司法保護委員會ニ參與ヲ置クコト  
ヲ得

參與ハ司法保護事業ニ關係アル官吏及學識經驗アル者ノ中ヨリ司法大臣之ヲ委囑ス

第四十三條 司法保護委員會ニ主事及書記ヲ置クコトヲ得

主事及書記ハ司法保護委員會長之ヲ命ズ

主事ハ會長ノ命ヲ承ケ庶務ヲ處理シ書記ハ會長及主事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第四十四條 司法保護委員會ノ任務左ノ如シ

一 保護通知ニ關スル處理



二 司法保護委員ノ指導及訓練

三 區司法保護委員會ノ聯絡

四 司法保護思想ノ普及及宣傳

五 其ノ他司法保護委員事業ノ運營ノ爲ニ必要ナル事項

第四十五條 前條第二號及第三號ニ掲グル事項ハ司法保護委員會ノ會議ニ於テ之ヲ決ス會長ニ於テ特ニ必要アリト認ムル事項ニ付亦同ジ

第四十六條 司法保護委員ノ會議ハ會長之ヲ招集ス

第四十七條 司法保護委員會ハ會議ニ於テ決定シタル事項ヲ司法大臣ニ報告スベシ

第四十八條 司法保護委員會ハ其ノ事業ノ成績及會計ノ狀況ヲ毎年司法大臣ニ報告スベシ

### 第三章 保護ノ手續

#### 第一節 司法保護團體ノ手續

第四十九條 檢事司法保護事業法第一條第一號及第二號ニ掲グル者ニ對シ一時保護又ハ收容保護ノ必要アリト認ムルトキハ本人ノ現在地又ハ歸住地ノ司法保護團體ニ之ヲ通知スベシ刑務所ノ長同法第一條第三號乃至第六號ニ掲グル者ニ對シ一時保護又ハ收容保護ノ必要アリト認ムルト



キ亦同ジ

第五十條 前條ノ規定ニ依ル通知ハ司法保護票ニ依リ之ヲ爲スベシ

司法保護票ノ様式ハ別ニ之ヲ定ム

第五十一條 司法保護團體一時保護又ハ收容保護ヲ爲シタルトキハ司法大臣ニ之ヲ報告スベシ

第五十二條 司法保護團體保護上必要アリト認ムルトキハ本人ノ承諾ヲ得テ其ノ携有スル金品ヲ

保管スベシ

第五十三條 本人疾病ニ罹リタルトキハ司法保護團體ハ速ニ醫療ヲ受ケシムベシ

第五十四條 左ニ掲グル事由生ジタルトキハ司法保護團體ハ司法大臣ニ之ヲ報告スベシ

一 本人所在不明ト爲リタルトキ

二 本人更ニ罪ヲ犯シタルトキ

三 本人傳染病又ハ重キ疾病ニ罹リタルトキ

四 本人死亡シタルトキ

五 其ノ他重要ナル事由ヲ生ジタルトキ

第五十五條 本人ニ對シ觀察保護ヲ爲スヲ相當ナリト認ムルトキハ司法保護團體ハ本人ノ現在地

又ハ歸住地ノ司法保護委員會ト聯絡ノ上保護上適當ナル處置ヲ執ルベシ



第五十六條 司法保護團體前條ノ規定ニ依ル處置ヲ爲シタルトキ又ハ收容保護ノ解除ヲ爲シタルトキハ司法大臣ニ之ヲ報告スベシ

第五十七條 司法保護團體必要アリト認ムルトキハ本人ニ對シ學科若ハ技術ノ成績又ハ性行ニ關スル證明書ヲ交付スルコトヲ得

### 第二節 司法保護委員ノ手續

第五十八條 檢事司法保護事業法第一條第一號及第二號ニ掲グル者ニ對シ觀察保護ノ必要アリト認ムルトキハ本人ノ現在地又ハ歸住地ノ司法保護委員會ニ之ヲ通知スベシ刑務所ノ長同法第一條第三號乃至第六號ニ掲グル者ニ對シ、少年審判所長ノ司法第一條第七號ニ掲グル者ニ對シ、保護觀察所長思想犯保護觀察法第一條ニ掲グル者ニ對シ觀察保護ノ必要アリト認ムルトキ亦同

第五十九條 第五十條ノ規定ハ前條ノ規定ニ依ル通知ニ之ヲ準用ス

第六十條 司法保護委員其ノ擔任區域内ニ司法保護事業法第一條ノ各號ノ一ニ該當スル者ニシテ之ニ觀察保護ヲ相當トスルモノアルコトヲ認メタルトキハ直ニ司法保護委員會ニ之ヲ通知スベシ

司法保護委員前項ノ場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ本人ノ保護ニ付應急ノ處置ヲ爲スベシ



第六十一條 司法保護委員會第五十八條ノ規定ニ依ル通知ヲ受ケタルトキハ本人ノ現在地又ハ歸

住地ノ區司法保護委員會ニ之ヲ通知スベシ前條第一項ノ規定ニ依ル通知ヲ受ケタル場合ニ於テ

本人ニ對シ觀察保護ノ必要アリト認ムルトキ亦同ジ

第六十二條 區司法保護委員會前條ノ規定ニ依ル通知ヲ受ケタルトキハ本人ノ保護ヲ擔當スベキ

司法保護委員ヲ定メ其ノ司法保護委員ニ之ヲ通知スベシ

第六十三條 司法保護委員ハ擔當シタル本人ニ付速ニ生活狀態、職業關係其ノ他本人ノ輔導上必

要ナル事項ヲ調査シ直ニ保護ヲ開始スベシ

第六十四條 司法保護委員保護ヲ開始シタルトキハ司法保護委員會ニ之ヲ報告スベシ

第六十五條 本人他ノ保護區ニ轉住シタルトキハ司法保護委員ハ轉住先ノ司法保護委員會ニ之ヲ

通知スベシ

第六十六條 區司法保護委員會司法保護委員ノ通知ニ依リ本人ニ對シ收容保護ノ必要アリト認ム

ルトキハ司法保護委員會ニ之ヲ通知スベシ

司法保護委員會前項ノ規定ニ依ル通知ヲ受ケタルトキハ遲滯ナク司法保護團體ト聯絡ノ上保護

上適當ナル處置ヲ執ルベシ

第六十七條 前條第二項ノ規定ハ司法保護委員會司法保護團體ヲシテ觀察保護ヲ爲サシムルヲ



適當ト認ムル場合ニ之ヲ準用ス

第六十八條 本人ニ付保護ノ目的ヲ達シタルモノト認ムルトキハ司法保護委員ハ區司法保護委員會ニ其ノ旨ヲ通知スベシ

區司法保護委員會前項ノ規定ニ依ル通知ヲ受ケタルトキハ遲滯ナク保護ノ解除ヲ爲スベキカ否ヲ決定スベシ

第六十九條 左ニ掲グル事由生ジタルトキハ司法保護委員會ハ司法保護委員ニ之ヲ報告スベシ

一 本人所在不明ト爲リタルトキ

二 本人更ニ罪ヲ犯シタルトキ

三 本人死亡シタルトキ

四 其ノ他重要ナル事由ヲ生ジタルトキ

第七十條 第五十條ノ規定ハ第六十一條、第六十二條、第六十五條、第六十六條及第六十八條第一項ノ規定ニ依ル通知ニ之ヲ準用ス

第七十一條 司法保護委員會ハ觀察保護ノ成績ヲ司法大臣ニ報告スベシ第六十六條第二項及第六十七條ノ規定ニ依リ爲シタル處置ニ付亦同シ



#### 第四章 司法保護團體ノ經營

第七十二條 司法大臣ハ司法保護團體ノ事業ニ關シ施設ノ改良其ノ他必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

司法大臣ハ部下ノ官吏ヲシテ司法保護團體ノ事業經營ノ方法及施設ノ狀況ヲ調査セシムルコトヲ得

第七十三條 司法大臣ハ司法保護團體ノ財産ノ管理其ノ他會計ニ關スル事項ニ付必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

司法大臣ハ部下ノ官吏ヲシテ司法保護團體ノ財産ノ管理其ノ他會計ノ狀況ヲ調査セシムルコトヲ得

第七十四條 司法大臣必要アリト認ムルトキハ部下ノ官吏ニ司法保護團體ノ監督ヲ命ズルコトヲ得

第七十五條 司法保護團體寄附金ヲ募集セントスルトキハ左ニ掲グル事項ヲ具シ事業經營地ノ地方長官ノ許可ヲ受クベシ但シ其ノ事業經營地ニ以上ノ道府縣ニ互ルトキハ司法大臣ノ許可ヲ受クベシ



- 一 募集者ノ氏名及住所
- 二 募集ヲ必要トスル事由
- 三 募集スベキ金額
- 四 募集ノ方法
- 五 募集ノ區域及期間
- 六 事業成績ノ概要竝ニ其ノ年度及前年度ノ收支狀況
- 七 事業計畫及之ニ關スル收支豫算

第七十六條 司法保護團體寄附金ノ募集ヲ完了シ若ハ之ヲ中止シ又ハ募集期間滿了シタルトキハ募集許可官廳ニ對シ遲滞ナク其ノ旨ノ報告ヲ爲スベシ

第七十七條 司法保護團體寄附金又ハ寄附金ニ依リテ得タル財産ノ處分ヲ爲サントスルトキハ左ニ掲グル事項ヲ具シ募集許可官廳ノ許可ヲ受クベシ

- 一 處分スベキ金額又ハ財産及其ノ見積價格
- 二 處分ヲ必要トスル事由
- 三 處分ノ方法

第七十八條 司法保護團體ハ其ノ事業ノ成績及會計ノ狀況ヲ毎年司法大臣ニ報告スベシ



第七十九條 司法保護團體ハ左ノ簿冊ヲ備附クベシ

- 一 日誌
- 二 保護原簿
- 三 會計簿
- 四 收容者名簿
- 五 保管金品臺帳

第八十條 獎勵金ハ事業開始後三年以上ヲ經過シタル司法保護團體ノ中從前ノ成績良好ナルモノ

ニシテ將來ノ計畫適切ナルモノニ對シ之ヲ交付ス

司法保護團體ノ基礎確實ニシテ其ノ事業ノ種類ニ依リ獎勵金ヲ交付スベキモノト認ムルトキハ前項ノ規定ニ拘ラズ之ヲ交付ス

第八十一條 司法保護團體獎勵金ノ交付ヲ受ケントスルトキハ左ニ掲グル事項ヲ具シ司法大臣ニ申請スベシ

- 一 申請ノ理由
- 二 獎勵金ノ交付ヲ受ケントスル年度ノ事業計畫竝ニ之ニ關スル收支豫算
- 三 事業成績ノ概要竝ニ其ノ年度及前年度ノ收支狀況



第八十二條 獎勵金ハ所轄ノ控訴院檢事長ヲ經由シテ之ヲ交付ス

## 第五章 雜 則

第八十三條 本令ニ於テ司法大臣ニ爲スベキ報告又ハ認可、許可若ハ獎勵金交付ノ申請ハ特ニ定

ムル場合ヲ除クノ外所轄ノ監督官廳及控訴院檢事長ヲ經由シテ之ヲ爲スベシ

第八十四條 法人タル司法保護團體ノ設立又ハ廢止ノ認可ノ申請ハ主タル事務所所在地ノ地方長官ノ外所轄ノ監督官廳ヲ經由シテ之ヲ爲スベシ

第八十五條 第七十五條乃至第七十七條ノ規定ニ依リ地方長官ニ爲スベキ許可ノ申請又ハ報告ハ事業經營地ノ所轄警察署長ヲ經由シテ之ヲ爲スベシ

## 附 則

第八十六條 本令ハ司法保護事業法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第八十七條 本令ノ施行ノ際現ニ司法保護事業ヲ經營スル者ハ本令施行ノ日ヨリ二月以内ニ其ノ届出ヲ爲シタル場合ニ限り司法保護事業法第三條ノ規定ニ依ル認可ヲ受ケタルモノト看做ス

第八十八條 本令施行ノ際現ニ地方裁判所管内ノ司法保護團體ノ指導、聯絡又ハ助成ヲ爲ス司法保護團體ハ本令ノ規定ニ準據シテ其ノ組織ヲ改メ本令施行ノ日ヨリ三月以内ニ届出ヲ爲シタル



場合ニ限り第二十三條ノ規定ニ依ル聯合保護會トシテ認可ヲ受ケタルモノト看做ス  
第八十九條 第二十八條、第八十三條及第八十四條ノ規定ハ前二條ノ届出ニ之ヲ準用ス  
第九十條 大正九年司法省令第四號ハ之ヲ廢止ス



參考二一

自昭和十二年司法保護事業關係建議一覽  
至昭和十六年

建議年月	建議要旨	建議者
昭和十二年七月	一、思想犯保護觀察法、實施卜一 般釋放者保護法制定三案六件 二、少年法並少年保護法施行二案六件	打回新竹州司法保護委員會大會
昭和十二年八月	一、少年法、台灣二施行一件 二、保護事業法制化一件	打回台南州保護事業大會
昭和十三年三月	一、思想犯保護觀察法施行並一般 釋放者保護法制定方一件	打回台中州釋放者保護事業大會



昭和十三年六月

昭和十三年七月

一 秋收者保護事業 / 法制化期望 / 一件

二 少年法 / 本島之施行方期望 / 一件

三 司法保護事業制度之促進方 / 一件

四 全島司法保護事業團之組織機關

設置方 / 一件

五 思想起保護廳審察法實施促進方

一件

六 少年秋收者 / 特殊保護增進建設方 / 一件

七 思想起保護廳審察法施行並一般秋

收者保護法制定方 / 一件

高雄州聯合保護

會長

和國新竹州司法保

護事業大會

和國台中州司法

保護事業大會議

長



昭和十四年四月

昭和十四年十月

昭和十五年三月

一、全島司法保護國本指導所成機

關設置方御盡力相成様致之度

二、刑余者ノ修養道場設置方御盡

力相成様致之度

三、司法保護制度促進要望ノ件

一、思想犯保護觀察施行並一敗狀

放看保護法制定方ノ件

二、司法保護事業法ヲ本島ニ施行方

要望ノ件

一、保護少年ノ輔導機關設置方御

高配相成度

台北州聯合保護

會長

水三回台中州司法保

護事業大會議長

高雄州聯合保護

會長

台北州聯合保護

會長



昭和十六年六月

二、性向犯釈放者ノ強制収容ニ関スル  
法律ヲ制定セラレタリ  
一、少年法施行方ノ件

台灣社會事業協  
會長



参考二二

司法保護事業法施行ニ要スル昭和十七年度増額豫算

項 目	要求額		算出内譯	算出内譯額
	事業費	雑給及雜費		
社會事業費	七五、三六二	〇〇〇	給與 保護委員 六六五人 一年年費	三〇、四一二〇〇〇
事業費	七五、三六二	〇〇〇	給與 保護委員 六六五人 一年年費	一三、八二五〇〇〇
雑給及雜費	四一、三六二	〇〇〇	給與 保護委員 六六五人 一年年費	一六、五八八〇〇〇
			給與 保護委員 六六五人 一年年費	一〇、九五〇〇〇〇
			給與 保護委員 六六五人 一年年費	一、四五〇〇〇〇



獎勵費		三四,〇〇〇	司政保護會 員會及 習公旅費	九,五〇〇
司政保護 會費	三四,〇〇〇	司政保護 會費	三〇,〇〇〇	〇〇〇
司政保護 會費	三四,〇〇〇	司政保護 會費	四〇,〇〇〇	〇〇〇
司政保護 會費	三四,〇〇〇	司政保護 會費	三〇,〇〇〇	〇〇〇

民國二十六年六月...

...	...	...	...	...
...	...	...	...	...
...	...	...	...	...
...	...	...	...	...



# ● 司法保護事業法

昭和十四年三月三十日  
法律第四十二號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル司法保護事業法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

(總理、司法、內務、  
大藏大臣副署)

## 司法保護事業法

第一條 本法ニ於テ司法保護事業トハ左ニ掲グル者ノ保護ヲ爲ス事業及右  
事業ニ關シ指導、聯絡又ハ助成ヲ爲ス事業ヲ謂フ

- 一 訴追ヲ必要トセザル爲公訴ヲ提起セズトセラレタル者
  - 二 刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタル者
  - 三 刑ノ執行停止中ノ者
  - 四 刑ノ執行ノ免除ヲ得タル者
  - 五 假出獄中ノ者
  - 六 刑ノ執行ヲ終リタル者
  - 七 少年法ニ依リ保護處分ヲ受ケタル者
- 第二條 前條ノ保護ニ於テハ本人ガ更ニ罪ヲ犯スノ危險ヲ防止シ之ヲシテ  
適シテ臣民ノ本分ヲ恪守セシムル爲性格ノ陶冶、生業ノ助成其ノ他適當  
ノ處置ヲ以テ本人ヲ輔導スルモノトス
- 保護ノ種類及方法ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
- 第三條 司法保護事業ヲ經營セントスル者ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケベシ之  
ヲ廢止セントスルトキ亦同シ
- 第四條 主務大臣ハ司法保護事業ヲ經營スル者ニ對シ監督上必要アル場合  
ニ於テハ其ノ事業ニ關スル報告ヲ徴シ、實況ヲ調査シ又ハ事業ノ經營ニ  
關シ指示ヲ爲スコトヲ得



第五條 主務大臣ハ司法保護事業ヲ經營スル者ニ對シ司法保護事業ニ關スル事項ノ調査ヲ委嘱スルコトヲ得

第六條 司法保護事業ヲ經營スル者其ノ事業ノ經營ニ必要ナル資金ヲ得ル爲寄附金ヲ募集セントストキハ主務大臣又ハ地方長官ノ許可ヲ受クベシ

前項ノ規定ニ依リ寄附金ヲ募集シタル者(其ノ承継者ヲ含ム)ハ其ノ收支ヲ寄附金募集ノ許可ヲ受ケタル官廳ニ報告スベシ

前項ニ掲グル者其ノ寄附金又ハ之ニ依リテ得タル財産ヲ處分セントストキハ寄附金募集ノ許可ヲ受ケタル官廳ノ許可ヲ受ケベシ

第七條 司法保護事業ヲ經營スル者本法ニ違反シ、公益ヲ害シ若ハ害スルノ虞アリ又ハ著シク不當ノ行爲アリタルトキハ主務大臣ハ司法保護事業委員會ノ意見ヲ聽キ其ノ者ニ對シ第三條ノ認可ヲ取消シ又ハ事業ノ經營ヲ制限スルコトヲ得司法保護事業ヲ經營スル者ハ法人ナル場合ニ於テ理事其ノ他ノ業務ヲ執行スル役員ニ著シク不當ノ行爲アリタルトキ亦同シ

司法保護事業委員會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第八條 政府ハ司法保護事業ヲ經營スル者ニ對シ豫算ノ範圍内ニ於テ獎勵金ヲ交付スルコトヲ得

第九條 道府縣、市町村其ノ他ノ公共團體ハ司法保護事業ノ用ニ供スル土地建物ニ對シテ租稅其ノ他ノ公課ヲ課スルコトヲ得ズ但シ有料ニテ之ヲ使用セシムル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第十條 第一條ニ掲グル者ノ保護ヲ爲サシムル爲別ニ司法保護委員ヲ置ク

司法保護委員ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十一條 司法保護事業ヲ經營スル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第六條第一項ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケズシテ寄附金ヲ募集シタルト



二 第六條第二項ノ規定ニ依ル報告ヲ爲サズ又ハ虛偽ノ報告ヲ爲シタルトキ

三 第六條第三項ノ規定ニ依ル許可ヲ受ケズ又ハ其ノ許可ニ反シテ寄附金又ハ之ニ依リ得タル財産ヲ處分シタルトキ

四 第七條ノ規定ニ依ル取消又ハ制限ニ違反シテ司法保護事業ヲ經營シタルトキ

第十二條 司法保護事業ヲ經營スル者ハ其ノ代理人、戶主、家族、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ヲ關シ本法ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第十三條 司法保護事業ヲ經營スル者ニ適用スベキ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(昭和十四年勅令第六百四十二號ヲ以テ昭和十四年九月十四日ヨリ施行)

本法施行ノ際現ニ司法保護事業ヲ經營スル者ニシテ命令ノ定ムル所ニ依リ届出ヲ爲シタルモノハ第三條ノ規定ニ依ル認可ヲ受ケタル者ト看做ス  
第六條第一項ノ規定ハ司法保護事業ヲ經營スル者ニシテ本法施行前寄附金ノ募集ニ付行政官廳ノ許可ヲ受ケタルモノニ對シテハ其ノ許可ニ基キ本法施行ノ際現ニ募集中ノ寄附金ニ付之ヲ適用セズ